公益社団法人

# 日本演劇興行協会

会報－No.46

*Japan Association of Major Theaters*

目　次

事業報告・事業計画……3
平成二十五年度助成金交付者　受賞のことば……6
受賞者インタビュー　竹内　弘氏……8
劇場の震災体験及び対策（第五回）
中日劇場……12
南座……13
劇場とわたし（第五回）……14
平成二十五年度海外研修報告……16
法人会員・賛助会員・特別会員 名簿……18
加盟劇場 名簿

# 公益社団法人 日本演劇興行協会 平成二十六年度 定時総会・理事会開催

公益社団法人日本演劇興行協会の定時総会を、平成二十六年六月十六日(月)午後二時から、東京丸の内、東京會舘において開催した。

**役員**

| | | |
|---|---|---|
| ◇会長 | | |
| 大谷 信義 | 松竹株式会社 | 代表取締役会長 |
| ◇常務理事 | | |
| 安孫子 正 | 松竹株式会社 | 取締役副社長 |
| 池田 篤郎 | 東宝株式会社 | 取締役 |
| 川瀬 昌弘 | 株式会社新歌舞伎座 | 代表取締役社長 |
| ◇理事 | | |
| 芦塚日出美 | 株式会社博多座 | 代表取締役社長 |
| 大塚 孝一 | 公益財団法人東京都歴史文化財団 | 副理事長 |
| 糟谷 治男 | 公益財団法人都民劇場 | 理事長 |
| 小山 觀翁 | 歌舞伎研究家 | |
| 白井 文吾 | 株式会社中日新聞社 | 代表取締役会長 |
| 成毛 由和 | 弁護士 | |
| 長谷川栄胤 | 株式会社御園座 | 代表取締役社長 |
| 松岡 功 | 東宝株式会社 | 名誉会長 |
| 三田 芳裕 | 株式会社明治座 | 代表取締役社長 |
| 森本 哲夫 | 財団法人放送セキュリティセンター | 理事長 |
| 渡邊 守章 | 京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター | 所長 |
| ◇監事 | | |
| 大西昭一郎 | 弁護士 | |
| 迫本 栄二 | 公認会計士 | |

五十音順

**定時総会議題**

第一号議案　平成二十五年度事業報告承認について
第二号議案　平成二十五年度決算書類承認について
第三号議案　理事任期満了に伴う改選について

各号議案は全員異議なく承認可決した。

公益社団法人日本演劇興行協会の理事会を、平成二十六年六月十六日(月)午後三時から、東京丸の内、東京會舘において開催した。

**理事会議題**

第一号議案　平成二十五年度事業報告書承認について
第二号議案　平成二十五年度決算承認について
第三号議案　特定費用準備資金の積み立て承認について
第四号議案　会長及び常務理事選任について
第五号議案　賛助会員入会承認について

各号議案は、担当常務理事が主旨説明を行い、全員異議なく承認可決した。

なお、平成二十六年度事業計画および収支予算は、平成二十六年三月四日(火)の総会、理事会で審議され、承認された。

## 【平成二十五年度事業報告】

平成二十五年度は定款四条に定められた事業を下記の通り実施いたしました。

本協会が実施している助成事業(演劇の関係者への助成金交付、海外研修者に対する助成、脚本家養成に対する助成)、普及事業(半額観劇会、学生対象の演劇教室、「高校生劇評グランプリ」への協賛)及び調査事業等の公的事業活動は充実し、演劇の振興と普及を図るという事業目的は達成いたしました。

### Ⅰ．助成事業

**(1)演劇関係者への助成金交付**

演劇興行および演劇製作に寄与した団体または個人の功績をたたえ、表彰する助成金交付は、委員会の答申を受け、常務理事における審議の結果、本年度は下記の三氏が承認されました。表彰式は平成二十六年三月四日(火)午後二時から、東京會舘に理事、監事、委員出席のもと、大谷会長から各表彰者に助成金と賞状を贈呈いたしました。

**(受賞者と授賞理由)**

**①竹内　弘　殿**

昭和四十四年三月より松竹株式会社関西演劇部に籍をおき、歌舞伎狂言方として東西の劇場の第一線で活躍されてこられました。

狂言方の仕事は、舞台監督の仕事を根本としながらも、その守備範囲は多岐にわたります。なかでも狂言方の先人たちの技術を継承した歌舞伎ならではの仕掛けものの考察は他の追随を許さないものがあります。

特に、三代目猿之助四十八選に選定された多くの作品を裏方として支えました。また、近年では関西狂言部屋を牽引し、後進の育成にも尽力されています。

こうした多年に亘る歌舞伎界への貢献を讃え、推薦するものです。

**②甲斐　正人　殿**

欧米やアジア圏の各国に赴き、現地でミュージカル・映画・民族音楽を研究された後、帝国劇場をはじ

め各劇場の舞台音楽・ミュージカル音楽を長年手掛けてこられました。

海外ミュージカルの音楽監督や、宝塚歌劇団等ではオリジナルミュージカルの作曲など、幅広い音楽活動で我が国の演劇界を牽引なさっています。

ここにその功績を讃え、推薦するものです。

**③前田　文子　殿**

文化庁派遣芸術家在外研修員として留学された英国での経験を生かし、ストレート・プレイやミュージカルのみならず、オペラや現代舞踊などの様々な分野の衣裳を手掛けてこられました。

ミュージカル『エニシング・ゴーズ』、『ピアフ』をはじめ、数多くの作品を手掛け、その優美さを湛えた優れた感性で多彩な衣装をプロデュースし続けております。

ここに功績を讃え、今後の一層の活躍を願って推薦するものです。

**(2)海外研修への助成**

本年度の海外研修は、昨年に引き続き研修志望者を募り、各自が日程、行動を事由に設定し、滞在中は各自が責任行動する方法で実施いたしました。協会は往復の航空運賃、宿泊費、観劇チケット代金を助成いたしました。

本年はニューヨークに六名、ロンドンに十三名の計十九名が参加いたしました。今年度で二十四年目となり、研修参加者の延べ人数は四五七名となりました。

**(3)新人脚本家養成のための助成**

本年度は、「第七回脚本募集」の応募を開始し、年度末の三月末日に締め切りました。応募数は、歌舞伎部門十六作、時代劇部門十六作、現代劇部門二十一作、ミュージカル部門八作の合計六十一作です。平成二十六年度に第一次から第四次審査を行い、平成二十七年六月に入選作の発表及び表彰式を予定しております。

(賞金は、最優秀作百万円、優秀作五十万円、佳作二十万円)

また、今年度も引き続き「脚本家養成講座」を開講し、「初心者コース」六名、「中級コース」十四名、「マスターコース」九名の計二十九名が受講いたしました。

通常の講義以外に、外部より講師を招いて特別講義を一回実施いたしました。

演劇の基盤を広げるためには優秀な脚本が求められます。演劇の脚本は一朝一夕に生まれるものではなく、長期的な養成が必要であります。継続して講座を維持してまいります。

## II. 普及事業

**(1)半額観劇会**

東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、公益財団法人都民劇場、大阪府、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人名古屋市文化振興財団、公益財団法人福岡市文化芸術振興財団と本協会とで共催している半額観劇会は、低価格で質の高い舞台芸術を鑑賞する機会を提供する事業として、都民、府民、市民から幅広く支持され、演劇人口の裾野を広げております。

本年度は、加盟九劇場の協力を得て、東京地区四回、大阪地区六回、名古屋地区三回、福岡地区九回の合計二十二回実施いたしました。

なお、平成二十五年四月、東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、公益財団法人都民劇場、大阪府、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人名古屋市文化振興財団、公益財団法人福岡市文化芸術振興財団と本協会とは、普及事業に関わる協定書に調印いたしました。また、公益財団法人名古屋市文化振興財団、公益財団法人福岡市文化芸術振興財団と本協会とは、普及事業に関わる取り扱い手数料について覚書に調印いたしました。

**(2)学生対象の演劇教室**

加盟劇場の観劇と組合せ、学生を対象とした演劇教室を開催し、若年層へ演劇の普及を行いました。

「学生のための歌舞伎教室」を、平成二十五年七月に大阪松竹座(参加者五十六名)、平成二十六年二月に博多座(参加者一八一名)、三月に京都南座(参加者一三六名)にて行いました。

「学生のためのミュージカル教室」を、平成二十五年八月に博多座(参加者一四〇名)、十月に帝国劇場(参加者一一五名)にて行いました。

**(3)高校生劇評グランプリへの協賛**

平成二十五年度より、公益社団法人国際演劇協会日本センター主催の「高校生劇評グランプリ」に協賛し、高校生の演劇への関心を高める一助となっています。

## III. 会報の発行

協会の事業及び情報の周知を図るため、会報四十四号、四十五号を発行いたしました。会報は会員、賛助会員、所轄官庁、関係団体、演劇評論家、演劇記者、業界紙、舞台関係者等々に配布いたしました。

## IV. 調査事業

ロンドン劇場協会が作成した加盟五十一劇場で実施された一年を通じたボックス　オフィスデータの調査結果とロンドン劇場協会提携会員の十二の準会員劇場の主要事項を内容としている「Box Office Data Report 2011」を入手し、演劇関係者の参考資料として翻訳、編集しました。

また、ぴあ株式会社が事業委託を受けて作成する「ライブエンターテインメント市場調査報告書」の調査・編集に協力しました。その報告書を入手し、加

盟劇場と情報を共有いたしました。

**報告事項**

1. 一般社団法人 日本音楽著作権協会(JASRAC)との音楽著作権料に関する交渉を継続して行う。
2. 一般社団法人７００ＭＨｚ利用促進協会とワイアレスマイクの周波数帯域移行問題の交渉を継続して行う。
3. 平成二十六年四月、劇場等演出空間運用基準協議会より発行の「舞台技術共通基礎 ―公演に携わるすべての人々に」の編集・作成に協力し、同書籍を加盟劇場に配布。
4. 理事の異動
平成二十五年六月　常務理事・池田篤郎氏就任、常務理事・増田憲義氏退任
平成二十六年三月　理事・岡副昭吾氏退任
5. 委員の異動
平成二十五年四月　歌舞伎座支配人・船越直人氏就任。
平成二十五年四月　シアタークリエ支配人・芦山典子氏就任、矢部奈保子氏退任。
6. 委員会の開催
協会加盟劇場の支配人を委員とする委員会は、協会の事業活動方針を審議するために、平成二十五年度は三月、六月、九月、十一月の四回開催いたしました。

## 【平成二十六年度事業計画】

演劇の普及と演劇に関する助成によって、文化の向上に寄与することを目的として活動する本協会の助成事業(演劇関係者への助成金交付、海外研修への助成)、普及事業(半額観劇会、新人作家養成及び演劇に関する講座開催)調査事業等、公的諸事業は順調に推移し、成果をあげている。

本年はこれらの諸事業を遂行することによって更なる公的事業の充実を図る。

### Ⅰ. 助成事業

**1. 演劇関係者への助成金交付**

演劇制作・興行の発展に寄与されたと認められた団体または個人に交付するもので、内外からの推薦を募り、これを委員会及び理事会の審議を得て決定する。(助成金は一件五十万円)

**2. 海外研修への助成**

平成元年に発足した海外研修は、研修者が欧米の演劇と文化に直接肌に触れることで大きな実績となる。海外演劇、特にミュージカル公演は盛況であり、本場のニューヨーク、ロンドンの舞台を研究したいという要望は強く、二十四年間の延べ参加人員は四五七名に達している。本年度も例年通り演劇業界に携わり、新しい分野に取り組む意欲を持つ人たちに、海外文化、演劇を勉強する機会を提供する事業として、内外から申請を募り実施する。本年度もニューヨーク・ブロードウエイ、ロンドン・ウエストエンドの劇場視察を行う。
(研修費は一人二十五万円及び研修先での観劇代金)

**3. 脚本家育成への助成**

(脚本募集及び脚本家養成講座)

演劇の基盤を広げるためには優秀な脚本が求められる。演劇の脚本は一朝一夕に生まれるものではなく、長期的な養成が必要である。

平成二十五年度より、「初級コース」「中級コース」「マスターコース」の三コースとした「脚本家養成講座」を引き続き開催する。演劇に親しんで、戯曲の創作を学んでもらう。また、今年度も試演会や各分野のゲスト講師を招き、講座の充実を図る。

当協会主催の「第七回脚本募集」の募集を平成二十六年三月三十一日で締切る。本年度は、その審査を「歌舞伎部門」「時代劇部門」「現代劇部門」「ミュージカル部門」の四部門で行う。平成二十七年度に受賞作を決定し、賞状と賞金を授与する。
(賞金は最優秀作・百万円、優秀作・五十万円、佳作・二十五万円)

### Ⅱ. 普及事業

東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、公益財団法人都民劇場、独立行政法人日本芸術文化振興会・国立文楽劇場、大阪府、公益財団法人名古屋市文化振興財団、公益財団法人福岡市文化芸術振興財団と本協会とが共催している半額観劇会は、低廉な価格で質の高い舞台芸術を鑑賞する機会を提供する事業として、都民、府民、市民から幅広く支持され、演劇人口の裾野を広げている。

本年度は加盟十劇場と一社の協力を得て、東京地区四回、大阪地区六回、名古屋地区三回、九州地区九回、計二十二回を実施する。

加盟劇場を利用した演劇教室を実施し、若年層を中心に演劇人口の拡大に努める。

平成二十五年度より、公益社団法人国際演劇協会日本センター主催の「高校生劇評グランプリ」に協賛し、高校生の演劇への関心を高める一助となっている。

### Ⅲ. 会報の発行

協会の事業及び情報の周知を図るために会報を年二回(七月・十二月)発行し、会員、賛助会員、所轄官庁、関係団体、マスコミ関係に配布する。

### Ⅳ. 調査事業

わが国の演劇関係の参考資料として、海外の演劇興行の実情を調査、研究し報告書を作成する。

ぴあ株式会社が経済産業省及びデジタルコンテンツ協会より事業委託を受けて制作する「ライブ・エンターテインメント市場調査報告書」を入手し、加盟劇場と情報を共有する。

# 日本演劇興行協会　平成二十五年度助成金交付者　受賞のことば

## 助成金受賞者

### 竹内　弘　殿

竹内　弘　氏

この度は日本演劇興行協会様より、大変栄誉ある賞を賜りまして誠に厚く御礼申し上げます。私は以前松竹衣裳株式会社の小道具部に勤務して居た時、当時の狂言方から誘われ仕事の内容も理解せず、周囲の反対も振り切り狂言方の道に進みましたのが、昭和四十四年三月でした。当初は雑用働きばかりの日々で若輩乍ら狂言方とは如何に？の疑問の連続でした。後に私の師匠と

### 甲斐　正人　殿

甲斐　正人　氏

この度は日本演劇興行協会様より大変栄誉ある賞を賜り誠にありがとうございました。

大学在学中にアルバイト代を使ってひと夏東京中の劇場公演を見て回った事がありました。それぞれの劇場で個性豊かに生き生きと公演がなされていて感動し、私も劇場音楽を作りたいと思った事を懐かしく思い出します。以来四十年あまり、劇場のスタッフ、キャストの皆様に支えられて今日まで作

### 前田　文子　殿

前田　文子　氏

この度は日本演劇興行協会様よりこのような栄誉ある賞を頂きまして心より御礼申し上げます。

学生演劇から始まり舞台衣裳家としてプロフェッショナルをめざし、師である緒方規矩子先生を訪ね「しっかりと実力を身につけてから世に出なさい」と叱咤激励を受けながら修行に勤しむことほぼ十年。「一旦仕事を始めた以上今日から貴方は私のライバル、お互いいい仕事をしましょう」と、世に

なります松井正三氏と出会えた事で私なりの狂言方像を描く事が出来ました。当時の関西は歌舞伎興行が数少ない時代でした。その様な環境の中で私に一筋の光と衝撃的な感動を与えて下さいましたのが、三代目市川猿之助、現二代目市川猿翁様でした。昭和四十七年六月旧南座での公演、『義経千本桜』の「川連法眼館の場」、通称「四の切」です。猿之助丈に初めて出会えた事で、狂言方としての自覚と決意を促して下さいました。その後も東西各劇場での猿之助公演に度々参加させて頂き、なお一層私を大きく育てて下さいましたのが昭和四十九年三月、旧明治座での三月大歌舞伎公演から昭和六十三年四月公演迄の十三年間です(五十三年公演なし)。師匠松井正三氏の助手として末席に置いて頂き数多く経験の場を与えて下さり、六十一年秋の二ヶ月間のヨーロッパ公演にも同行、スーパー歌舞伎公演では仕掛物の担当者として引き立てて下さいました。今回の受賞はひとえに松井正三師、二代目市川猿翁様のお蔭と深く感謝申し上げております。本日は誠に有難う御座いました。曲を続けてこられました。本当にありがとうございました。

この四十年間劇場を取り巻く社会情勢は大きく変化いたしました。映像文化が隆盛を極め、さらにインターネット全盛の時代を迎え、演劇や音楽が発信者と受け手という個人的なつながりとなり、いよいよ人々が孤立化していく現象に拍車をかけているように思えてなりません。その中で一歩劇場に足を踏み入れてみればそこには作り手と出演者と観客が同じ空間で共に感動を共有する時間を過ごせます。この文化はこれからも益々私たちに必要な物となるに違いありません。私はこの大切な劇場文化をさらに発展させる一助をにないたいと思っております。

又この事業を次の世代に引き継ぐべく後輩の育成も大切だと思います。かつての師弟制度が崩れて若い音楽家が劇場音楽を学ぶ機会が無くなっています。これからは日本演劇興行協会の皆様のお力をお借りしつつ次代の音楽スタッフの育成にも力を入れて参りたいと思っております。

改めましてこの度は本当にありがとうございました。

送り出されてから今年で二十年の月日が経ちました。疾走と呼ぶに相応しいこの二十年間。沢山の方々に導かれ、様々な機会を与えてられ多くの喜びを分かち合い、こうして創造の現場にいられます上に、この節目の年に普段お世話になっている興行主の皆様から評価を頂きましたこと、身に余る幸せを感じております。

メディア媒体が多様化し個々で過ごす時間が多くなったように思われますが、一人でも多くのお客様に劇場へと足をお運び頂き、私達創り手とお客様、お一人お一人が、今この瞬間しか味わうことのできない素敵な時間を共有出来ますよう、また、次なる夢のステージへとお客様を誘えますよう、この受賞を機に、私自身初心に返りこれからも真摯にこの道を歩んで行きたいと思います。

時代を越えた色々な国の様々な人になって、あるいは夢の中でしか会えない素敵な人になって、色とりどりの素敵な服を着たい。私自身が着たい服を創る。舞台衣裳家を志した日を忘れないように。

心から感謝いたします。ありがとうございました。

## 歌舞伎狂言方

# 竹内　弘さんインタビュー

歌舞伎狂言方の竹内弘さんは、三代目市川猿之助（現二代目猿翁）丈の元で数々の作品を手掛けられ、古典からスーパー歌舞伎のようなダイナミックな舞台まで、多彩な舞台を支えてこられました。竹内さんが携わっている市川染五郎丈主演の『伊達の十役』（五月、明治座）公演中に、お話をうかがいました。

―歌舞伎狂言方になられたきっかけから教えてください。

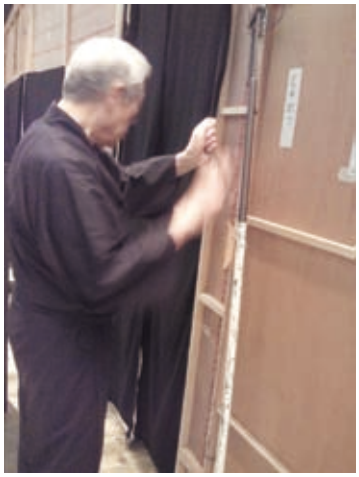
僕は歌舞伎を知らなければ演劇も知らない、芝居自体を全然知らなかったんです。関西の人間ですから、昔から知っていたのは松竹新喜劇の藤山寛美さんくらいなものでした。若い頃、実は歌手になりたかったんですよ。それで歌の学校へ行き始めたんですが、親に内緒だったのがバレてしまって。親はやめさせるために知らない間に自衛隊への入隊手続きをしてしまったんです。親には絶対服従という世代ですから、それで自衛隊に入ったんです。

半年の教育期間が終わると姫路の駐屯地に配属になりました。そこで半年経った頃、どうしてもやめたくなったんです。ちょうど「高校三年生」で舟木一夫がデビューした頃でね、歌に未練が残ってるから「先をこされた！」って（笑）。「こんな事やってられない」って若いから思ったんですね、中隊長にやめさせてほしいと話したんです。そうしたら大阪の親と話をつけてくれて、とにかく二年間は自衛隊にいることと、その間に車の免許をとるように、と。その頃の名残りです、僕の運転免許証が大型免許なのは。

―では無事免許を取得して、二年で自衛隊をおやめになったんですね。

そうなんです。でも年齢的にもう歌はあきらめていて、今度は役者を目指したいと（笑）。松竹新喜劇に入りたいと思ったんです、寛美さんのところにね。でも伝手はないし飛び込みも出来ない。そんな時、新聞に大阪の松竹衣裳の小道具部の募集広告を見つけまして。同じ松竹だから寛美さんに近づけるかなと思って応募したんですよ。結局行けなかったけどね（笑）。

小道具部に入って三年目、九州の百貨店主催の巡業に小道具でついて行ったんです。その時に狂言方の人と初めて直接仕事をして、狂言方にならないかという話が出た。その話をもってきた先輩は、狂言方になって二〇年間後輩が来



『伊達の十役』（五月、明治座）の舞台裏で、黒衣に身を包み作業中の竹内さん

てなかったんです。きっとそろそろ後輩が欲しかったんでしょうね。僕はまったくわからないまま狂言方の世界に飛び込んでしまったんです。

## 歌舞伎狂言方の仕事とは

―狂言方というのは上方歌舞伎独特のものです。現代演劇でいう舞台監督に近い立場になるかと思いますが、仕事内容について教えていただけますか。

関西では「狂言方」と「作者」という二つの役割りがあります。狂言方は芝居の進行と装置の仕掛けの考案、作者は本番のプロンプと書き物（芝居に出てくる手紙や証書などの小道具）を作ります。関東は「狂言作者」一つだけで、どちらの仕事もする。また、東京では「柝」を打つのは狂言作者で大道具が「ツケ」打ちをしますが、関西ではどちらも狂言方が打ちます。つまり、関西のシステムでは作者と狂言方が一対なんです。プロンプと芝居の進行を二人で分割するやり方はとてもいいと思うのですが、狂言方は僕を入れて全部で四人いるけれど、実はもう作者は一人もいないんです。いまプロンプは関東の狂言作者さんに手伝っていただいています。

―狂言方の師匠である松井正三さんからはどんな教えを受けましたか。

これはこうするんだとか、手取り足取り教えてもらったことはないんです。黙ってやっていることを見て手伝って、それを盗むっていうことなんですよ。松井さんは僕が生まれるずっと前から仕事をされているわけですから、なるほどという技をたくさん持っていらした。けれど時代とともに技術的な環境

スーパー歌舞伎『ヤマトタケル』（1986年2月初演、新橋演舞場）

『三国一夜物語』（2002年9月、松竹座）

も変わっていきましたし、出来ることもどんどん増えてきた。ですから、松井さんのやり方を見て覚えては、見た目には同じ効果だとしてもよりスムーズなものになるように、自分でやる時には少しずつ変化させていきました。

―三代目猿之助丈の芝居に数多く携わっていらっしゃいますが、お仕事するようになったきっかけは。

元々は師匠の松井さんが三代目とやっていらしたんです。明治座での復活狂言が昭和四十九年（一九七四年）の『加賀見山再岩藤』から始まり、それに松井さんが携わっていた。僕は松井さんの助手として付いていました。そして先ほど言ったように、自分でやる時にはそれを応用して、同じことはしないで少し変えてやっていたんです。三代目はそれを見ていらしたんだと思うんですよ。松井さんがお亡くなりになって以降、僕に声がかかるようになったんです。

―三代目猿之助丈はどんな方ですか。

三代目は完全主義者で、どんなことも中途半端にはしない方です。僕はすごく大事にしてもらいましたし、情のある方だと思います。お弟子さんもすごく大事になさいますね。決して呼び捨てにしないでさん付けにするし、僕らに対してもいつもさん付けです。もちろん怒られることもあったけれど、言い過ぎたなという時にはちゃんと後でフォローしてくださいますし。三代目は怒ると江戸っ子になるんですよ（笑）。でもそこまで近いところで仕事させていただけたことは本当にありがたいことだと思います。

## 観客を驚かせる仕掛けものの数々

―これまで手掛けられた仕掛けもので、印象深いものはありますか。

スーパー歌舞伎は『ヤマトタケル』の初演（一九八六年）から携わっていますが、「走水」の場面はヒットかなと思います。ヤマトタケルの船が嵐にあい、海神の怒りを鎮めるため弟橘姫が海へ入水する際に船から畳を流しますが、畳が次々に海の上に美しく繋がって落ちていくように見えるように、かなり工夫しましたね。

それから染五郎さんと四代目猿之助（当時亀治郎）さんの『三国一夜物語』（二〇〇二年九月、松竹座）。二幕目「海底龍宮殿の場」で、染五郎さんが富士太郎と乙姫、亀治郎さんが桜子と龍王というそれぞれ男女の二役が目まぐるしく早替わりをする場面で、早替わりの空間を装置の中に作りだしたのですが、これはなかなか上手くいきました。

―演出家や振付家からの要望にあわせて考案されるんですね。

まずはそこからです。どこから入ってどこに出たいのか、演出家・振付家の意図を聞き、ではそうするにはどうしたらいいのだろう、と。最初の話し合いの時には、出来るか出来ないかはわからないけれど、実現するように努力はし

ます、と。それであれこれ考えるわけです。

—そういった仕掛けもの自体が歌舞伎にとっては財産ですね。

いえいえ、そんなたいしたことじゃないんですよ。基本のパターンがあってそれを応用してくだけなんです。染五郎さんが三役早替えする『怪談敷島譚』(二〇〇一年五月、松竹座)の二幕目。土手場に船が着くと葛が流れてくる。お玉役の染五郎さんは、船の底が抜いてあってそこから葛に入り、早替わりして敷島の亡霊になって出てくる。葛を閉めると今度は奥の土手の上に抜けて、早替わりで十三郎になってだんまりになるんです。これは今回の『伊達の十役』の二幕目「土橋堤」でも使っている方法で、もとは澤瀉屋(三代目猿之助)が初めて『伊達の十役』をやる時に松井さんが昔からあったこのやり方を伝授したんです。僕のもそのやり方の応用なんですね。

—芝居だけではなく仕掛けも復活したというわけですね。三代目猿之助丈が復活された『伊達の十役』をいま染五郎さんが上演し、それを竹内さんが支えていらっしゃる。これだけの演目を上演できる役者の存在とそれを支えていく人々がいてはじめて、一つの作品が出来上がるんですね。

たんに年の功なだけですよ。ただね、いまもこうして狂言方の仕事が出来ているのは、澤瀉屋さんが根気よく使ってくださったおかげだと感謝しています。

—狂言方という仕事の今後については、どのように考えていらっしゃいますか。

本当はいろいろと話を残さなくちゃいけないとは思っているんですけれどね。この間も、芝居の世界で俺がいなきゃいなきゃっていう気持ちはやめろ、プライドを持って仕事をするのはいいけれど本当にそういう気持ちにはなるな、なんていう話をしたんです。つまり、自分がいなくなったとしても芝居の世界はどうにでもなるんですよ。たとえ役者が倒れても代役が出演して芝居は進行するでしょう。だからね、いち裏方がいなくなっても芝居は成立する。もちろんやり方は変わると思いますけれど、舞台を見ているお客さんにはなんら支障はないでしょう。芝居の幕は必ず開くんです。

取材・文／高橋涼子
写真協力／松竹株式会社

『加賀見山再岩藤』(2000年10月、歌舞伎座)。
三代目猿之助の岩藤

**■プロフィール**

たけうち・ひろむ
三重県出身。大阪在住。自衛隊に二年勤務した後、昭和四十年に松竹衣裳株式会社大阪店に入社、小道具部に所属する。昭和四十四年三月に松竹株式会社第二演劇部に所属し、狂言方の道を歩む。多年にわたり歌舞伎狂言方として関西を中心とした全国各地の様々な劇場において数多くの演目に関わる。また三代目市川猿之助(現二代目猿翁)の公演に携わり、古典からスーパー歌舞伎までその舞台を長年支えてきた。現在は関西狂言部屋のリーダーとして後進の指導にあたっている。平成二十三年度第四十六回大阪市民表彰(文化功労部門)。

# 劇場の震災対策

## 来るべき東海地震への備えを

中日劇場　副支配人　土本順治
（中日新聞社　文化芸能局　劇場部長）

二〇一一年三月十一日午後二時四十六分ごろ、東日本大震災の瞬間。名古屋市中区にある私どもの中日劇場では、正午開演の『ゾロ　ザ・ミュージカル』が佳境にさしかかっていた。震度は三程度。震源地周辺や関東地区に比べれば軽度の揺れで、舞台機構にも損害はなく客席内の混乱も軽微（五人ほどのお客様が場外へ出た程度）だった。

東海地区では、おしなべて大きな被害はなかったが、近い将来に予測されている「東海・東南海地震」への備えが従来から憂慮されており、その対策を先延ばしにしようとする当地区の緩んだ警戒意識を激しく叩き起こすことになった。

その後の内閣府の調査で、来るべき大地震による東海地区の想定震度は震度六～七、沿岸部での津波は最大二十五m以上と発表された。中日劇場を経営する中日新聞社は、関東・東海・北陸エリアで新聞を発行しており、この災害規模は新聞発行を生業とする社の機能障害も充分に想定される。また東京本社（東京新聞）も震災の洗礼を受け、また被災地を取材した多くの記者が、平和な生活を奪われ、突然の被害に苦しむ東北の人々を目の当たりにしたこともあり、次の有事に備えた「震災対策要綱」を一気呵成に策定することになった。災害時の通信システムの構築や、印刷工場被災に備えた他新聞社との相互印刷協定などが急ピッチで整備され、事業部門でも当劇場や文化センター、展覧会・スポーツ大会での災害発生に備えたシミュレーションが進められた。

当劇場も、この震災対策要綱や入居ビルと連携をとった新たな計画を作成することに。

要点は二つ。「（大地震の）前兆の可能性高まった」とする「注意情報発令の時点で①公演の各パート責任者が速やかに集合できる連絡網の整備②災害が発生した時点で一刻も早く意思決定し具体的アクション（公演継続／中止の判断、観客・キャストの避難誘導や自衛消防活動の実行）につなげる計画の立案。当劇場は都心十二階建てビルの七～十二階に位置し、客席のある八階から地上につながる専用階段がある。また注意情報発令は、ビル警備室から一斉に放送されることもあり、これらの特性も組み込んだ計画になっている。

とはいえ一九六六年の竣工から五〇年近くが経つ施設で、地震の程度によっては想定外の二次災害もありえるし、身障者などへの対応についても更なる検討が必要だ。

# 松竹新喜劇劇団員と開晴小学校児童の参加による南座合同防災訓練を実施

松竹株式会社　南座　副支配人　藤田　孝

京都は大きな災害から比較的守られてきた古都ですが、滋賀県高島市から京都市左京区へ続く活断層「花折断層」を震源とする大規模地震が発生した場合、南座の位置する東山区は震度六強～七程度の揺れが生じ市内全域で大きな被害が生じると想定されています。

南座としては、公演中に大きな地震が起きた場合に如何なる対応が必要か、お客様の安全確保、舞台進行の中断、その後の地震情報の提供や劇場内の人的物的被害の確認と対処、二次災害への備えや上演再開の可否の判断など、劇場各部の役割と活動を整理し訓練を重ねる事が必要であると考え、地震発生時の基本的な実務と流れを簡易なマニュアルにまとめるべく、非常時の放送原稿等とともに作成を進めてきました。

そして、この簡易マニュアルをタタキ台に「地震発生により南座が震度四で揺れた為上演を中断、その後の火災発生により初期消火・通報・避難誘導を行う」という想定の自主防災訓練を計画し、所轄の東山消防署による指導と協力を得て、平成二十六年五月二十一日に訓練実施の運びとなりました。訓練には、事前に訓練趣旨に賛同いただいた地元東山区の開晴小学校六年生百名と一般の観客五十名が観客役として参加。さらに「松竹新喜劇」出演者二十数名が地震発生直後の注意喚起や火災発生後の避難誘導員として参加するなど、消防隊員、警察署員、区役所職員も加えた総勢約二七〇名の合同訓練となりました。

当日は出演俳優と舞台スタッフが松竹新喜劇十八番『お祭り提灯』上演の配置につき、南座従業員も所定の配置、観客一五〇名は訓練内容の詳細を知らぬ状態で客席に着席し、午後四時二十分、定式幕を開けて本番通りのお芝居を上演開始。約二分後の突然の「地震発生！」を受け、舞台上の藤山扇治郎は即座に演技を中断し、自ら小道具の座布団を頭に乗せて「地震だ～、かがんでください」「落ち着いてその場で身を低くしてください」と呼びかけるなど、各部が事前に定めた役割を訓練。その後、館内食事処の厨房からの出火に対する初期消火と通報を訓練し、出演俳優も舞台や花道から肉声で誘導案内するなど大勢の観客を実際に屋外へ避難誘導するなどの訓練を行い、最後に消防隊員による放水消火活動と負傷者救出のデモンストレーションを以て全ての訓練想定を終了。東山消防署長による今回の訓練の意義、課題などの講評で締めくくりました。

翌日の新聞紙面に、参加した小学生の「本当に地震が起きたと思ってやった。普段通りできた」とのコメントや、藤山扇治郎の「公演中に地震が起きてもあわてず、訓練を踏まえて行動したい」との言葉が掲載されたように、訓練の積み重ねが災害時の対応に活かされると誰もが認識した訓練でした。様々な気づきや課題を数多く顕在化させる事が出来た今回の訓練が今後の取り組みへの第一歩になったと考えます。

劇場とわたし（第五回）

# 長谷川一夫に教えられたこと

東宝株式会社 演劇部 製作統括　酒井喜一郎

地下鉄、六本木の駅から麻布方面に歩き、明治屋の前を通り過ぎたころ、急に降り出した秋雨が舗道を濡らし始めた。四川飯店を過ぎてから右に曲がり裏に回ると、そこに長谷川一夫の家がある。

秋の雨が肌に冷たく感じるのは、まだ夏のほてりが身体の芯に残っているからかもしれない。

「お前、例の秘密兵器を使うつもりじゃないだろうな」

同行してくれた企画室長の渡辺保（この時代は東宝演劇部企画室長で、現在は演劇評論家として活躍）が、やや心配げに言う。

「事と次第によってはね」

と、言いながら、チャイムを押した。ドアが開いて長谷川家に長い間仕えている男性が迎え入れてくれた。

「急に降ってきたからお濡れになったでしょう。今タオルをお持ちしますけど、とりあえずお上がり下さい」

と、いつもの応接間に通される。

「やはり、例の奴は使わないほうがいいよ」と、渡辺保が言う。

「俺の身にもなってくれよ。こう朝令暮改じゃ、いくら書いてもきりがないよ」

「お前ねえ、朝令暮改なんて思っていたらそれは間違いだよ。自分の意図したことをこっちがきちんと理解できているか、その確認のために長谷川先生は言ってるのだから」

「と、いうことは今回のも気にいってはいないということだ。でも今日で六回目の直しだぜ。いくら、仕事といっても我慢の限界ってものが――」

と、言いかけた時、

「お待たせしました。お茶を。それからこれでお身体を拭いて下さい。先生はすぐおいでになりますから」

と先程の男性が、お茶とタオルを置いて出ていった。

東宝歌舞伎は長谷川一夫を座長とした公演であるが、その煌びやかな舞台と贅をつくした出演者、加えて長谷川一夫の魅力で、初演以来、毎回売り出しと同時に完売という東宝のドル箱であった。毎年、一月と十月に東宝劇場での公演がありファンは、それを心待ちにするほどの人気興行であった。

やや間があって、長谷川一夫の登場である。さすが主役の出は違う。こちらの息が整ったなとわかって、すーと出て来る。これが舞台だったら「長谷川！」と声がかかり、万雷の拍手だろうが、ここは長谷川家の応接間。しかもこれから出される彼のダメを聞かなければならない二人だから、顔は笑っているが、心は慄いている。

「ご苦労さん」と言って長谷川一夫はソファーに座った。

「どや、でけたか、傑作が？」

なにやら皮肉めいて聞こえるが、常もこの調子だから一々腹も立つことなく、こういう風景に慣れてしまった自分達が哀しいと感じながら、私は原稿を差し出した。

「先日お聞きしたダメを入れて書いてきましたが」

「ふん」そういいながら彼はプロットを読み出した。

　これはスター第一主義の商業演劇華やかなりし頃の話である。何故脚本を長谷川一夫の気にいるようにしなければならないのかという疑問は常に私の中にあるのだが、こんな本で、わしは芝居がでけん、と言われれば興行に影響がでる。従ってスターである長谷川一夫の言いなりに、直すしか方法がなかった。しかし、他のスターはともかく、長谷川一夫の脚本を読む力は誰よりも優れていた。上方歌舞伎で苦労して極めた技、いかに客の目を自分に向け、楽しませ、感動させるか、それを舞台上で表現することができる稀有な俳優だったから、我々がいくら知恵を絞っても敵うわけがないし、彼のいうことも納得せざるより仕方なかった。

　二人とも落ち着かない。刑の判決を待つ囚人のような緊張感で胸が張り詰めている。やがて最後のページを読み終えた長谷川一夫がおもむろに口を開いた。

「なかなか、よう出来とるわ。勉強しはったな」

　二人が胸をなで下し顔を見合わせたとたん、

「しかしなあ、ここの場で半七はこんなせりふは言わんやろ」

　案の定だった。前回指摘され、言われた通り直した個所が、また違うというのである。

「でも、先日言われた通り直したのですが」

「いや、わしはこんなこと言うてへんで」

　言った、言わないのやりとりをすることは無駄だった。渡辺保も目顔で、もうやめろとサインを送ってくる。最後のカードを突きつけて、これでどうだ！という気持ちを抑えて、

「わかりました。ではもう一度書いてきます」

　渡辺もほっと胸をなでおろしたに違いない。しかし、長谷川一夫の口から出た次の言葉は意外だった。

「それがあがったら、もうわしに見せんでもええ。本屋はんに渡しなはれ」

　この場合の本屋とは、脚本家のことである。長谷川一夫は珍しく玄関まで送ってくれ、

「二人に傘を持たせなはれ。まだ降ってるやろ」

　傘をさして通りまで出た。六本木の街のネオンがやたら目に眩しく、二人ともこの街から早く出たかった。タクシーを走らせ帝国ホテルへ。二階のメインバーのカウンターに座りやっと落ち着いた。ともかくひと段落ついたことに乾杯をして、

「結局、俺達は善男善女の類なのかなあ」

　スコッチの水割りを一口飲んで「なんだ、それは」と渡辺が言う。

「長谷川一夫という大教祖に帰依して日常を送っているからさ」

「お前が彼の演劇様式を全面的に信じているとは思わないけど？」

「信じていないといったら嘘になるだろう。あれほど芝居の知識を持っている人は滅多にお目にかかれない。優れた演出家でも敵わないかもしれない。口ではうるさいとか何とか言っているけど、長谷川一夫には芝居のすべてを教えられたと思っているよ」

「まあ、それがわかってきたということは、お前も大分進歩したんだよ」

「いや、それもあなたに従いて、東宝歌舞伎のプロデューサーを担当させてもらったから解ったことだし、あなたにもいろいろ演劇のノウハウを教えてもらった。心から感謝してる。いや、これは本心だよ」

「よせよ、そんな見え透いたお世辞は。それより何か食べようよ。緊張が解けたら腹がへってきた」

　私は前にいるバーテンに、サンドウィッチを頼んだ。

「例の秘密兵器、聞いてみようか」と言うと、渡辺は頷いた。

　私は内ポケットから小型のテープレコーダーを取り出し、周りに気づかれないように音を小さくして、スイッチを押した。前回の長谷川一夫の声が聞こえてくる。

「ほら、俺が書いてきた通りのことを、言ってるだろ？」

「確かにそうだな。しかしあの家でこれが証拠だ！と言ってスイッチを押さないで良かったんじゃないか？」

「そう思う。本人も何となく解っていたんだと思うよ。だから、次は見せずに本屋に渡して良いって言ったんだろ」

「傘も貸してくれたし、玄関まで送ってもくれたし」

　サンドウィッチが出された。渡辺は一片口に入れ美味そうに食べ、

「もしもだよ、お前がスイッチを押して、長谷川一夫が自分の声を聞いたら、きっと怒って出てゆくだろうけど、彼のことだ。黙って出て行くわけはない。捨て科白は言うだろう。何て言ったと思う？」

「お前らは卑怯な奴やな。以後そんなもの持ち込み禁止や」

　私たちは笑った。そしてグラスをカチンと合わせた。それは一つの仕事の目途がたった安堵感と、それとかけがえのない我らの演劇の師、長谷川一夫への乾杯だったのかもしれない。

　雨はもうやんでいるのだろうか？　秋も深まり爽やかな日々なのに私達はその季節に身を委ね寛いではいられない。

　正月。宝塚劇場の『半七捕物帳』の台本作りに専念しなければならないから。

# 平成二十五年度海外研修の報告

博多座　演劇事業部　嘉副蓉子

入社以来、それまでほぼ無縁だった演劇というものに携わらせて頂く中で、自身の仕事での経験値の低さはもちろんのこと、演劇というものに対する見識の薄さを日々感じておりました。「本物をたくさん観て、自分の目と感性を養いなさい」。様々な場面で出会う諸先輩から頂くアドバイスでした。

そんな中での海外研修への公募に際し、社内の先輩方からも快く背中を押して頂いたうえ、同行者の先輩に生意気に時期のご相談までさせて頂き、このような貴重な機会を実現させて頂けることとなりました。以下、ロンドン・ウエストエンドへの研修のご報告をさせて頂きます。

極寒を覚悟で挑んだ一月のロンドンでしたが、寒さはさほど気にならず、どこを切り取っても画になるお洒落で美しいロンドンの街並みにすぐに魅了されました。街を歩きながら、何よりも目を引いたのは劇場の多さと共になんといってもチケット・エージェンシーの多さです。日本のコンビニなみに街のいたるところで目にしました。そして、どの駅に降りても地下鉄の駅構内に公演ポスターが貼ってあり、さすがはミュージカルの本場だと実感させられました。

今回、五つの劇場に足を運び、いずれもロングランで比較的定番のミュージカルを観劇させて頂きました。劇場に関して言えば、それぞれの歴史ある劇場が持つ雰囲気や会場のテイストの違いも興味深く、特に『The Phantom of The Opera』を上演しているHer Majesty's Theatreの厳かな雰囲気は、とても作品の内容にマッチしているようでした。

館内には小さなバーカウンターがあり、休憩時間に狭いスペースにたくさんの人がほぼ立ち飲みの状態で楽しそうに過ごしている様子は印象的でした。また、どこもフリースペースと呼べるほどの広いスペースがないせいか（劇場や大きなホールというよりは日本の映画館のような印象）、休憩中も座席で過ごしている人が多く、客席でアイスクリームやプログラムを手売りするスタッフの姿をよく見かけました。サービスに関しては、初めのうちは多少の戸惑いはありましたが、客と対等な立場で接する接客も慣れてしまえば、むしろ気楽に感じるようにもなりました。ただ、終演後の客席にはアイスクリームや飲み物のゴミが散乱しており、日本では考えがたいマナーに少しがっかりしました。

舞台自体は、想像していたよりとてもコンパクトな構造でしたが、大掛かりな装置や工夫された舞台転換はそれぞれの作品の特色として見

応えがありました。今回、特に印象的だったのは『Charlie And The Chocolate Factory』と『Billy Elliot』です。両作品共、ビジュアルだけでなく、個性的なキャラクターを完全に演じきっていた子役達のレベルの高さに圧倒されました。また、『Charlie…』の原作の世界観を損なうことのない見事な舞台演出は、映像から何からまるで手品を見ているように奇想天外で、どの作品よりも舞台装置にお金がかかっているだろうと思いました。どちらも親子連れが目立ちましたが、『Billy…』の方は、比較的幅広い年齢層で客席が埋まっている印象でした。やはり、人々に長年愛され、今なお色褪せない本物のミュージカルの功績なのでしょうか。

今回、演劇の聖地で感じたことはたくさんありました。私が劇場に入社した当初よりここ数年、何かと不景気という言葉が付きまとい、これからの商業演劇の行く末には暗雲が立ちこめているようにすら感じることがありました。ロングランを想定しない限り難しい費用投資等、全てを一概には言えませんが、それでも、歴史あるウエストエンドの街は、そんな不安など一蹴してしまうような人々の賑わいと進化し続ける演劇の可能性に溢れていました。

最後に、今回この夢のような貴重な機会を与えて頂きました日本演劇興行協会様、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。今後、この経験と自分が感じたことを大切な財産として目の前のことに邁進していければと思います。有難うございました。

平成25年度海外研修者名簿

| 劇　場　名 | 所　属　・　役　職 | 氏　　名 |
|---|---|---|
| 歌舞伎座 | 照明部　課長代理 | 平野　　茂 |
| 歌舞伎座 | 監事室 | 小野里大輔 |
| 新橋演舞場 | 案内係 | 篠田　順子 |
| 新橋演舞場 | 販売課 | 高貫　博子 |
| 帝国劇場 | 演劇部　企画課長 | 遠藤　　学 |
| 帝国劇場 | 副支配人 | 鈴木　美和 |
| シアタークリエ | 演劇部　宣伝室 | 塚田　淳一 |
| シアタークリエ | 演劇部　演出部　演出助手 | 執印久美子 |
| 明治座 | 営業部　団体課　係長 | 林　菜穂子 |
| 明治座 | 制作部　制作課　係長 | 黒瀬　朝子 |
| 中日劇場 | 劇場部　営業課 | 大寺　敏彦 |
| 中日劇場 | 事務管理部 | 伊藤美代子 |
| 新歌舞伎座 | 業務部　劇場課 | 松本　　文 |
| 新歌舞伎座 | 営業部　営業一課 | 阪本　信子 |
| 大阪松竹座 | 関西演劇部　演劇営業課 | 荒木　紘子 |
| 大阪松竹座 | 関西演劇部　演劇営業課 | 上田由香里 |
| 南座 | 演劇興行部　南座　宣伝 | 岩田　雄一 |
| 博多座 | 演劇事業部　演劇事業担当 | 嘉副　蓉子 |
| 博多座 | 営業部　セールス担当 | 本田　雅和 |

## （公社）日本演劇興行協会　法人会員名簿

平成26年7月現在（五十音順）

| | 会社名 | 代表者名 | 住所 |
|---|---|---|---|
| 関東 | 株式会社イヤホンガイド | 代表取締役社長　久門　隆 | 104-0061　東京都中央区銀座3-14-1 銀座3丁目ビル5F |
| | 有限会社大久保化学工業 | 代表取締役　大久保政彦 | 103-0008　東京都中央区日本橋中洲4-15 |
| | 松竹株式会社 | 代表取締役社長　迫本　淳一 | 104-8422　東京都中央区銀座4-1-1 |
| | 松竹衣裳株式会社 | 代表取締役社長　酒井　誠一 | 104-0041　東京都中央区新富2-2-8 |
| | 株式会社ショウビズスタジオ | 代表取締役社長　飯島　義裕 | 104-0061　東京都中央区銀座1-28-5 |
| | 株式会社タカサゴ | 代表取締役社長　新倉　康榮 | 171-0031　東京都豊島区目白1-1-1 |
| | 東宝株式会社 | 代表取締役社長　島谷　能成 | 100-8415　東京都千代田区有楽町1-2-2 |
| | 藤浪小道具株式会社 | 代表取締役社長　野村　哲朗 | 111-0032　東京都台東区浅草6-3-4 |
| | 株式会社明治座 | 代表取締役社長　三田　芳裕 | 103-0007　東京都中央区日本橋浜町2-31-1 |
| | 株式会社WOWOWコミュニケーションズ | 代表取締役社長　黒水　則顯 | 220-8080　神奈川県横浜市みなとみらい3-3-1 三菱重工横浜ビル18F |
| 中京 | 株式会社中日新聞社 | 代表取締役会長　白井　文吾 | 460-8511　愛知県名古屋市中区三の丸1-6-1 |
| | 株式会社御園座 | 代表取締役社長　長谷川栄胤 | 460-8403　愛知県名古屋市中区栄1-6-14 |
| 関西 | 株式会社新歌舞伎座 | 代表取締役社長　川瀬　昌弘 | 543-0001　大阪府大阪市天王寺区上本町6-5-13 |
| 九州 | 株式会社博多座 | 代表取締役社長　芦塚日出美 | 812-8615　福岡県福岡市博多区下川端町2-1 |

## （公社）日本演劇興行協会　賛助会員名簿

平成26年7月現在（五十音順）

| | 会社名 | 代表者名 | 住所 |
|---|---|---|---|
| 関東 | 有限会社アトリエ・カオス | 代表取締役　田中　義彦 | 156-0056　東京都世田谷区八幡山1-1-15 |
| | 株式会社エス・ピー・ディ明治 | 代表取締役社長　井田　浩司 | 103-0007　東京都中央区日本橋浜町2-31-1 明治座アネックスビル |
| | 演舞場サービス株式会社 | 代表取締役社長　迫本　淳一 | 104-0061　東京都中央区銀座6-18-2 |
| | 株式会社歌舞伎座 | 代表取締役社長　大谷　信義 | 104-0061　東京都中央区銀座4-12-15 |
| | 歌舞伎座舞台株式会社 | 代表取締役社長　荒牧大四郎 | 104-0061　東京都中央区銀座7-15-5 共同ビル4階 |
| | 有限会社菊地商事 | 代表取締役　菊地　正夫 | 162-0834　東京都新宿区北町40番地 |
| | 熊谷印刷株式会社 | 代表取締役社長　岡田　智夫 | 104-0045　東京都中央区築地3-3-12 |
| | サンピアンかわさき | 館長　足立　公司 | 210-0011　神奈川県川崎市川崎区富士見2-5-2 |
| | 新橋演舞場株式会社 | 代表取締役社長　迫本　淳一 | 104-0061　東京都中央区銀座6-18-2 |
| | 成旺印刷株式会社 | 取締役社長　佐々野昌男 | 105-0014　東京都港区芝2-1-28 |
| | 株式会社総合医学社 | 代表取締役　渡辺　嘉之 | 101-0061　東京都千代田区三崎町1-1-4 |
| | 東京帝国警備保障株式会社 | 代表取締役社長　島居　眞文 | 170-0005　東京都豊島区南大塚3-47-1 オーエスビル6F |

## 賛助会員名簿

| | 会社名 | 代表者名 | 住所 |
|---|---|---|---|
| | 東京エンジニアリングシステムズ株式会社 | 代表取締役社長　中澤　誠 | 108-0023　東京都港区芝浦4-3-4 田町きよたビル5F |
| | 株式会社東宝コスチューム | 取締役社長　國井　祐嗣 | 151-0043　東京都渋谷区笹塚3-22-3 |
| | 株式会社東宝サービスセンター | 代表取締役社長　守屋　俊男 | 100-0006　東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル |
| | 東宝舞台株式会社 | 代表取締役社長　加藤　陽則 | 339-0025　埼玉県さいたま市岩槻区釣上新田1048-1 |
| | 東宝不動産株式会社 | 代表取締役社長　高橋　昌治 | 100-0006　東京都千代田区有楽町1-5-2 |
| | 株式会社トーショー | 代表取締役　岩田　敏雄 | 187-0004　東京都小平市天神町3-10-3 |
| | 杜陵印刷株式会社 | 代表取締役社長　大野　志郎 | 104-0045　東京都中央区築地2-3-4築地第一長岡ビル9Ｆ |
| | 株式会社宝円堂 | 代表取締役　阿多　亨 | 104-0041　東京都中央区新富1-5-5 |
| | 有限会社ホー・ユー企画 | 取締役　宇佐美　肇 | 194-0042　東京都町田市東玉川学園1-30-2 |
| | 株式会社宮澤商店 | 取締役社長　宮澤　武 | 111-0032　東京都台東区浅草6-5-1 |
| | 明治座事業株式会社 | 代表取締役社長　三田　芳裕 | 103-0007　東京都中央区日本橋浜町2-31-3 |
| | 明治座舞台株式会社 | 代表取締役社長　三田　芳裕 | 103-0007　東京都中央区日本橋浜町2-31-3 |
| 中京 | 鵜飼興業株式会社 | 代表取締役社長　神谷　武彦 | 460-0008　愛知県名古屋市中区栄2-1-1日土地名古屋ビル4F |
| | 有限会社藤井照明 | 取締役社長　藤井　幹伸 | 464-0075　愛知県名古屋市千種区内山3-1-15 |
| | 株式会社山二製材所 | 代表取締役　児玉　正光 | 454-0012　愛知県名古屋市中川区尾頭橋通1-25 |
| 関西 | 大阪府公衆浴場組合 | 理事長　浦田　充 | 543-0071　大阪府大阪市天王寺区生玉町9-3 |
| | 株式会社関西再資源ネットワーク | 代表取締役社長　福田　裕司 | 592-8331　大阪府堺市西区築港新町4丁2番5号 |
| | 有限会社関西照明設備研究所 | 代表取締役　河本　康夫 | 552-0007　大阪府大阪市港区弁天3-15-9 |
| | 佐川印刷株式会社 | 代表取締役　木下　宗昭 | 617-0003　京都府向日市森本町戌亥5-3 |
| | 三精テクノロジーズ株式会社 | 代表取締役　中川　実 | 564-0063　大阪府吹田市江坂町1-13-18 |
| | たつた舞台株式会社 | 代表取締役　立田　豊 | 542-0071　大阪府大阪市中央区道頓掘1-9-19 大阪松竹座 |
| | 野田福 | 代表取締役　野田　達子 | 560-0026　大阪府豊中市玉井町1-10-21 |
| | 学校法人野辺野学園 | 理事長　山中　理 | 514-1121　三重県津市久居二ノ町1855 |
| | 山田不動株式会社 | 代表取締役社長　山田　崇博 | 604-8414　京都府京都市中京区西ノ京小倉町22 |

## （公社）日本演劇興行協会　特別会員

平成26年7月現在

| | 会社名 | 代表者名 | 住所 |
|---|---|---|---|
| | 公益財団法人都民劇場 | 理事長　糟谷　治男 | 104-8077　東京都中央区銀座5-1-7 数寄屋橋ビル6F |

# 公益社団法人 日本演劇興行協会・加盟劇場名簿

| | 劇　場 | 経営法人 | 支配人 | 住　　所 | 電　話 | 定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 東京 | **歌　舞　伎　座** | 松竹株式会社 | 船越　直人 | 104-0061　東京都中央区銀座4-12-15 | 03-3545-6800 | 1,808 |
| | **新橋演舞場** | 松竹株式会社 | 荒井　康博 | 104-0061　東京都中央区銀座6-18-2 | 03-3541-2600 | 1,428 |
| | **サンシャイン劇場** | 松竹株式会社 | | 170-8630　東京都豊島区東池袋3-1-4文化会館 | 03-3987-5281 | 832 |
| | **帝　国　劇　場** | 東宝株式会社 | 阿部　聖彦 | 100-0005　東京都千代田区丸の内3-1-1 | 03-3213-7221 | 1,917 |
| | **シアタークリエ** | 東宝株式会社 | 芦山　典子 | 100-0006　東京都千代田区有楽町1-2-1 | 03-3591-2400 | 611 |
| | **明　治　座** | 株式会社明治座 | 野田　勇樹 | 103-0007　東京都中央区日本橋浜町2-31-1 | 03-3660-3939 | 1,368 |
| 中京 | **中　日　劇　場** | 株式会社中日新聞社 | 森　茂樹 | 460-0008　愛知県名古屋市中区栄4-1-1中日ビル | 052-263-7190 | 1,444 |
| | **御　園　座** | 株式会社御園座 | 建　替　え　中 | | | |
| 関西 | **新歌舞伎座** | 株式会社新歌舞伎座 | 松本　清 | 543-0001　大阪府大阪市天王寺区上本町6-5-13 | 06-7730-2121 | 1,453 |
| | **大阪松竹座** | 松竹株式会社 | 吉浦　高志 | 542-0071　大阪府大阪市中央区道頓掘1-9-19 | 06-6214-2211 | 1,033 |
| | **南　座** | 松竹株式会社 | 国越　稔弘 | 605-0075　京都府京都市東山区四条大橋東詰 | 075-561-1155 | 1,086 |
| 九州 | **博　多　座** | 株式会社博多座 | 原田　貞之 | 812-8615　福岡県福岡市博多区下川端町2-1 | 092-263-5858 | 1,490 |

発　行　日　平成２６年７月
編集・発行　公益社団法人　日本演劇興行協会 事務局
発　行　所　東京都中央区銀座１丁目２７番８号セントラルビル
TEL. ０３（３５６１）３９７７